

# 「墨田区都市計画マスタープラン」改定区民ワークショップ

平成19年度

## 第5回 ワークショップの概要

### ■第5回ワークショップの概要

◎テーマ：区民ミーティングでの意見の反映について

◎日時：2007年8月28日 19:00～21:00

◎会場：すみだ生涯学習センター 2階ホール

7月19日から8月2日までの期間で、6グループがそれぞれの地域の皆さんと意見交換を行うため「区民ミーティング」を開催しました。その中でのご意見を踏まえた提案内容にするため、最後の検討を行いました。

今回は、これまで毎回使ってきた区役所の会議室から、すみだ生涯学習センターに会場を変えて開催しましたが、総勢27名の参加があり、「成果発表会」の予行演習といった雰囲気、緊張感ある会となりました。

### ■当日の流れは・・・



いつもとは違う雰囲気の会場で・・・



これまでの検討成果を広げながら・・・



気心の知れたメンバーと自由闊達な意見交換を行いました。



最後の発表は壇上で本番さながらに行いました。

### ■次回の予定は・・・

これまでの検討の成果を検討委員会に提案する「成果発表会」を開催します。

(注) 区民ワークショップの検討は今回で終了となります。今後は、地域懇談会やパブリックコメントを通じて、区民の皆さんの意見をうかがうこととなります。

このニュースの内容に関するお問い合わせは、[toshikeikaku@city.sumida.lg.jp](mailto:toshikeikaku@city.sumida.lg.jp) (墨田区都市計画課) までご連絡ください。

## ■Aグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

### ◎Aグループ：荒川沿いの墨田・八広地区に堤通・東向島地区の一部を加えた、概ね明治通り以北の区の北端部に位置するエリア



区民ミーティングでは、「セットバックをしないで現在のまま建て替えを可能にするルールを検討する」という提案に対し、賛否両論の意見がありました。これに対して、「拡幅が不可能なところが残っている」「拡幅しても大地震の際には消防車には期待できない（自主消火が基本）」という考えのもと、以下のような対応とすることにしました。

#### ～道路の性格を明確にする～

- まちの防災性向上のために拡幅整備が必要な道路／拡幅整備しなくてもよい道路について検討し、これを明確にしていく
- 拡幅する場合のルール（高さ規制など）、拡幅整備しない場合のルール（不公平感をなくすような地域への貢献メニューなど）について検討していくことを提案する

#### ～市街地全体の防災性を高める～

- 区民ミーティングでの提案内容の通り、建物の耐震化・不燃化や消防水利の設置、電線類の地中化などを提案していく

#### ～その他の指摘事項への対応～

- 隅田川・荒川の景観や河川敷の活用に関する内容、鐘ヶ淵駅前やカネボウグラウンド（→空き地／仮設住宅用地に）を活用した活性化策についても追記することを確認しました。

## ■Bグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

### ◎Bグループ：東向島・向島・京島といった密集市街地のまちづくりと曳舟・押上・業平橋といった大規模開発が並んだ区の中央部に位置するエリア



区民ミーティングでは、新タワーに関連した意見が大半を占め、「タワーを中心に本所や向島をつなぐ」人力車や亀戸線の活用、駐車場と老舗の店舗を組み合わせた集客などのアイデアのほか、渋滞対策の不十分さを指摘する意見や水上交通の実現性に対する疑問などが出されました。まちの活性化という大きな方向性は概ね賛同が得られたので、主に提案に取り込めるアイデアについて確認を行いました。

#### ～新タワーに関連した交通施策を明記する～

- 鉄道の連続立体化や道路整備とあわせて、渋滞対策のアイデアを参考に“歩いて巡るまちのため”適切な駐車場整備などを追加する
- 提案済の亀戸線の活用のほか、人力車などの誘客のアイデアを取り入れる

#### ～北十間川の活用に関する提案は発表のとおりとする～

- 水上交通の可能性については実現を期待する声も大きいので、区に検討してもらうこととする

#### ～その他の指摘事項への対応～

- 「昔からの景観も大切だが、現状を補強して災害に強いまちにして欲しい」といった指摘もありましたが、建て替え自体を否定する訳ではなく、「路地を活かした建て替え」「路地のままでの建て替え」といった“建て方”の提案であったので、グループの提案内容を大きく変更しないことを確認しました。

■Cグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Cグループ：小村井、東あずまの2駅を中心に広がる立花・文花地区に旧中川で結ばれた東墨田地区を加えた、区の東端部に位置するエリア



区民ミーティングでは、「この地域を観光地にする必要はない」「旧中川の整備は地域の“住環境”の向上を目指した」とのご意見があり、グループの提案が活性化に偏っているという指摘がありました。一方では、「区の西側に負けない地域にしたい」「これといった歴史や観光資源がないので発掘していきたい」という活性化を期待する意見も多くあったので、提案の方向性を大きく変えるのではなく“住みやすさ”を中心にした提案とすることを確認しました。

～“誇れる地域”を目標に“住みやすさ”を強調した提案にする～

- 観光などとリンクさせていた環境面の取り組みを“住む人を集めるための方策”の中に位置づける
- 学校跡地の活用については、避難所としての役割も明記する

～その他の指摘事項への対応～

- ワークショップでも提案したミニバスの導入に関連して「運行の妨げにもなる荷さばきや駐車・駐輪に対する取り組みが必要」といった意見や、「旧中川沿いに水辺活用の基地／防災の拠点となる公園を整備したい」といったより発展的な意見も、提案に取り入れていくことを確認しました。

■D1グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D1グループ：両国駅周辺から、両国・本所・吾妻橋にわたる、概ね北を北十間川、東を大横川親水公園までを範囲とするエリア



区民ミーティングでは、「歩行者ゾーン」などの取り組みのほかに、「北斎館をどう地域に取り込んでいくのか」「新タワーの来街者をよそに取られない工夫が必要」といった指摘がありました。これについては、「商業やサービス業が減少してきている」といったまちの活性化を求める声もあることから、積極的に取り上げていくこととし、以下のような検討を行いました。

～“おもてなしの心”を大切に観光面への取り組みを追記する～

- 北斎通りにふさわしい店の設えなど、まちの目標を定めてまちづくりを進める
- 来街者が休めるような飲食店を掘り起こすなど、地元の振興にもつなげていく

～その他の指摘事項への対応～

- 「道といっても色々ある。“道”というより“通り”ストリートが対象ではないか」という“道の使い方”に関する指摘に対しては“街区内道路を対象に”道の使い方を見直すべきだという意見交換を行いました。
- マンションに関して「他でも住民の出入りは激しいので、ワンルームだけを標的にするのは極論ではないか」といった指摘があることから、「地域に根付いたマンションを誘導する」ことを確認しました。

■D2グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D2グループ：錦糸町駅周辺から、錦糸・業平にわたる、概ね北を北十間川、西を大横川親水公園までを範囲とするエリア



区民ミーティングでは、「錦糸町と区役所周辺のどちらを重点的に整備するのか」という意見があった一方で、賑わいや緑の広がりに関連して「まちづくりの方向性として回遊性が弱い」「錦糸町界隈は娯楽施設や商店がバラバラすぎる」「大横川の整備だけでなくその周辺も含めて広くまちづくりに取り組んでいく必要があるのではないか」など地域全体を捉えた意見も多かったため、まちづくりを面で捉えるという提案の基本方針を改めて確認しました。

～まちづくりを面的に広げる一環として歩行者環境の整備などを追記する～

- 大横川を軸として水と緑の空間を広げる、ギャラリーの設置など街角の整備を行うというグループの従来の提案を強調する
- 歩行者環境を重視したまちづくりに関して、道路空間の有効利用や違法駐輪や看板等の歩道上の障害物の解消に関するルールなどを追記する

～その他の指摘事項への対応～

- 水辺の整備について「生物生息環境への配慮が必要」「親水整備を行う前にゴミが捨てられて汚い部分を何とかしたい」という意見もあるため、新タワーの建設を契機とした水辺の再生にあわせて、生物棲息環境の実態調査など自然環境への配慮についても検討することを確認しました。
- 「賑わいの街であるが、静かな居住環境とのバランスが必要」という意見がある一方でジャズフェスティバルの開催や定期市の開設などの活性化のアイデアもあり、錦糸町駅前や大横川の活用方策として盛り込んでいくことを確認しました。

■D3グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D3グループ：菊川・立川・緑を中心とする、概ねJR線路または豎川／首都高速道路以南の区の南端部に位置するエリア



区民ミーティングでは、子供の遊び場や豎川の活用に関して、「子供の遊び場が少ないので豎川を利用できないか」「高架下の水辺に自転車道路を整備するというアイデアは良いと思う」「川を埋めて公園的に使えないか」「川にふたをしたり埋めたりすると危ない場所になってしまう恐れがある」など活発な意見交換が行われたため、豎川の活用を地域づくりの軸としていくことを確認しました。

～豎川の整備と活用について、“地域づくりの軸”としての位置づけを強調する～

- 豎川を公園や相撲部屋地域の史跡などを効果的につなぐ緑道ネットワークの軸として位置づける
- 大横川親水公園との連携を強化し、新タワーとのつながりもつくっていく
- 子供の遊び場なども含めた具体的な整備の方法については今後検討していく

～その他の指摘事項への対応～

- 「豎川以南の整備が遅れている」「神社の倉庫などにしまっている御神輿を人目につく場所に展示してはどうか」「氏子界をベースにしたまちづくりの取り組みがあっても良い」といった内容については、提案の中に意見も取り込んでいくことを確認しました。